

請 願 文 書 表

(総合企画局)

受 理 番 号	3 5 4	受 理 年 月 日	令 和 6 年 1 0 月 1 日
件 名	北陸新幹線京都延伸計画の中止の要請		
要 旨	<p>北陸新幹線京都延伸計画の3ルートが示された。</p> <p>東西ルートの地下トンネルは、八条通付近から東へ向かい、東海道新幹線トンネルの南側を通り、山科区で大きくカーブして久御山町の車両基地に向かうようである。</p> <p>東山区の東海道新幹線南側一帯は、1921年（大正10年）に完成した東海道本線新逢坂山トンネル掘削の際に周辺の井戸の水位が下がり、さらに1964年開通の東海道新幹線東山トンネル掘削で一層水位が下がり、使えなくなった井戸もある。深く掘った井戸の水質が悪く、近年廃業するまでJR西日本が水道代を立て替え続けた風呂屋もあった。トンネル掘削で出た残土の一部は蛇ヶ谷や一ノ橋川支流の上流部の埋立てに使われた。しかし、東西ルートトンネルの残土を処分する場所はない。東海道新幹線トンネル上部地域では、今でも列車通過の際の振動と音に悩まされている。</p> <p>北陸新幹線京都延伸計画の東西ルートのトンネルが東山区今熊野地域の大深度を通れば、地下水位はどこまで下がるのか、残土処理がどのように行われるのか、トンネル上部にどのような影響が出るのか心配である。</p> <p>半世紀以上前の1970年代高度成長期に立案された整備新幹線計画は、もはや社会の変化に対応していない。今日、人口減少が顕著になり、気候変動への対応から一極集中ではなく地方分散が推奨されている。情報通信技術は飛躍的に発展している。また、リニア新幹線の工事が既に始まっている。国土軸と称して北陸新幹線京都延伸計画に5兆円以上掛ける必要はないのではないか。</p> <p>ついては、京都市会として、政府に北陸新幹線京都延伸計画の中止を求める意見書を提出することを願う。</p> <p>なお、本請願について、署名133筆を添える。</p>		
請 願 者			
紹 介 議 員	井崎 敦子、山本 陽子、森田ゆみ子、北山ただお、加藤 あい		
付 託 委 員 会	総務消防委員会		